

決算説明会 質疑応答(要旨)

(2022年度第2四半期)

Q1. エネルギー&ライフラインの営業利益の下方修正幅が大きくなった要因は。

A1. 海外プロジェクトで資材の高騰と労働力の確保に苦戦したことが要因です。また、船舶事業の鋼材費高騰によるロスコンの積み増しも影響しています。

Q2. 追加費用が発生する可能性は。

A2. ロシア・ウクライナ情勢を注視し、状況の推移を慎重に見ていきます。

Q3. 業績について、社内計画との乖離はどの程度か。

A3. 全体では上期は計画に対し受注高は大幅増、売上高は若干増加、営業損益は計画未達です。エネルギー&ライフラインについては下方修正があったものの、他のセグメントについては下振れておらず、資材費高騰による全体的な利益の未達傾向となっています。

Q4. 価格転嫁の背景や対象や地域についての方針、来年度以降の見通しは。

A4. 量産系を中心に価格を改訂しています。海外はタイムリーに価格反映する傾向にありますが、国内は価格改定告知後の駆け込み発注が目立ち、売上が上がっていない傾向にあります。

Q5. 量産系の事業環境に懸念はないか。見直す予定は。

A5. PTC 事業は現状底堅く推移しており、省エネ、高効率モーターには積極的に投資しています。射出成形機は好調だった前期に比べると中国欧州中心に売上が落ちているものの、底堅い一面もあります。建機は日本北米ともに堅調ですが、受注残が積み上がっている状況です。

以上